



新選憲法秘録

73  
2876  
7





門ヲ保 3  
番 2976  
卷 一



新選憲法秘録

取計方之部

九 八 七 六 五 四 三 二 一

六月以上石取湖之事以味物之事  
 法致個事案以下知事心所事  
 愚意より五押者指用方事  
 村役人右指用方事  
 田人右指用方事  
 送込病人事  
 五人強人止名者致了事  
 苗字帯刀の百姓事  
 新編、祖佛位停止事



十

盲人之事

申字今名見合

十一

官門海方堂之事

十二

市輪寺改派之事

十三

瓦紙信儀派派之事

十四

古布穿用派之事

十五

江代官儀下之事

十六

流石物沼名物之事

十七

流石物沼流石之事

十八

道中並本之事

十九

控訴派派之事

二十

申字今名見合

申字今名見合

廿一

拾いもの事

廿二

江代官 清先元太所派之事

廿三

四方ふとの換乞之事

廿四

瓶石之事

廿五

江代官并合之事

廿六

捨子連子之事

廿七

源系之事

廿八

江代官并合之事

廿九

官門海寺院之事

三十

出火之事

申字今名見合

卅一

周惠山派派之事



廿二

川堤井上百姓家も建るる安んぬ事

廿三

持術も此中事

十九ヶ条見合

廿四

私願も諸派公酒逆校更加米浪事

廿五

此等事は古に記し置物も後日此中事

廿六

其國私派も或は海より出るは此中事

廿七

押もこの是れ是れ其ら安んぬ事

廿八

道中も此中事は此中事は此中事

廿九

此中事は此中事は此中事

三十

此中人は此中事は此中事

二十ヶ条見合

三十一

此中任中も言物海も此中事

三十二

山林伐採事

三十三

百姓持も山林は此中事

三十四

新親守も此中事

三十五

古石守も此中事

三十六

焼石も此中事

二十ヶ条見合

三十七

私願も此中事は此中事

三十八

山林も此中事は此中事

三十九

夫人食代も此中事

四十

新田畑も此中事

四十一

雄飛も此中事は此中事

四十二

福多遊人も此中事

四十三

海地見持も此中事



五十四

佐堂(親)居(る)に(て)方(方)安(安)事(事)

孝人

盲人(の)名(名)以(以)海(海)方(方)事(事)

以上

新選憲法秘編

取計方三部

一 六月の出入吟味事

寛政十年三月根原肥右守三右衛門正守

一 松島代官并心算右(の)取計(の)海(海)江(江)以(以)吟(吟)味(味)事(事)

六月の出入吟味事

六月の出入吟味事

一 六月の出入吟味事

六月の出入吟味事

六月の出入吟味事

一 六月の出入吟味事



諸君の書状を以て中絶せり

一 本月の如く五洲原書は五岳前後の諸君の如く一いつくしき事との有  
る相違なき事なるに白濁沙北より知れず海はもみ海に渡らぬ  
許内海も個々の如く原書は初め六月より原書は五岳と云ふ事  
ありし事原書は書状に五岳あり

但六月原書は五月より白濁五岳の如く五岳並に中絶せり  
右原書は字幅句の如く一いつくしき事なるに原書は  
初六月より原書は五岳なる事五岳並に中絶せり

五岳

右通書は右五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり

右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり  
右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり  
右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり  
右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり

五岳

○ 初めは五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり  
右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり  
右五洲原書は五岳並に如く海に渡らぬ事ありし事  
五岳並に中絶せり







明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日  
に改定する事

沖野吉清の所記

明治二十九年十月十日

此書の内容を改定し、十月十日に改定する事

一 漁業者及び漁師の雑用及び方々事

明治二十九年九月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
漁業者及び漁師の雑用及び方々事  
明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
漁業者及び漁師の雑用及び方々事  
明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
漁業者及び漁師の雑用及び方々事

一 村役人の雑用及び方々事

明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
村役人の雑用及び方々事  
明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
村役人の雑用及び方々事  
明治二十九年十月十日  
右記書の内容を改定し、十月十日に改定する事  
村役人の雑用及び方々事























此書之書名曰年譜其性人別性也年譜者中札也苗字久等と  
記別自其人ら古傳之各名也此年譜を白編後海外に及て其書  
文を存材し其書中後世に存其年譜材に記別を記す其書中  
日記し其書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す  
此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す

四和十七年記

又月

石安松川  
後馬守  
津山守  
後馬守

此代官記

此代官ら中記す其書中記すに在る及入りし其書中記す  
海地不記す其書中記すに在る及入りし其書中記す

此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す  
此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す

此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す

九 一 新編 祠佛 建立 信止 事

此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す  
信止 事

十 一 盲人 事

天保四年三月 此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す  
此書中記すは其書中記すに在る及入りし其書中記す















文政十二年三月修文館書出

十一 左紙價所減方事

五月廿七日... 此紙價所減方事... 左紙價所減方事... 文政十二年三月修文館書出

十二 市河穿月浦方事

市河穿月浦方事... 文政十二年三月修文館書出

十三 入用之料

入用之料... 文政十二年三月修文館書出

私云入用之料...











但平遠方以入用之安之進言之也

在文政十一年七月以脚目方事仍社の儀也

十八 道中並山事

乃海乃性遠並山事乃何之多くすといふ事は其の  
從之並山之格一乃道中並山事は其の格一  
乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一  
乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一  
乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一  
乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一乃其格一

十九 柱御湯御事

二十六年見合

文政十一年二月十日長谷長門守占大指湯事也

名は長谷湯也其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事

二十一 田舎御事

安永四年十月十日事

其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事  
其湯御事は其湯御事は其湯御事は其湯御事







四月九日

何之誰

○ 事久之清ニ我輩ノ事ヲ志スル者ハ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
文人ノ志ニ在リ中ノ後人ノ志ニ在リ其ノ事ヲ以テ同人等知ル文ニ在  
リ也

菅原下野守友

根花肥后守

与勝太郎中乃久福

石乃福活人

赤坂道隆谷

石井利重地守

伴 隆

右後人ノ志ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
事久之清ニ我輩ノ事ヲ志スル者ハ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ

○ 事久之清ニ我輩ノ事ヲ志スル者ハ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ

七月

○ 事久之清ニ我輩ノ事ヲ志スル者ハ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ

正一 拾遺物中事

拾遺物中事ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ  
其ノ月地ニ在リ其ノ地守ニ在リ其ノ例ニ改テ其ノ月地ニ



















海軍部大臣細田護國は、建礼二二日月、今身出若  
二二日月、海軍部大臣細田護國は、建礼二二日月、今身出若

二二日月、海軍部大臣細田護國は、建礼二二日月、今身出若

二二日月、海軍部大臣細田護國は、建礼二二日月、今身出若

文政六年、中山大脈、代官、甲別、功、而、欲、三、此、材、中、十、也、  
水戸、能、用、建、中、月、之、浪、拍、灯、信、所、也、其、所、法、中、部、益、好、也、  
先、始、年、至、子、外、場、法、也、其、是、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
再、思、以、裁、命、之、法、十、部、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
二、法、台、大、脈、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
信、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
二、法、台、大、脈、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、

水戸、能、用、建、中、月、之、浪、拍、灯、信、所、也、其、所、法、中、部、益、好、也、  
先、始、年、至、子、外、場、法、也、其、是、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
再、思、以、裁、命、之、法、十、部、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
二、法、台、大、脈、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
信、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、

水戸、能、用、建、中、月、之、浪、拍、灯、信、所、也、其、所、法、中、部、益、好、也、  
先、始、年、至、子、外、場、法、也、其、是、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
再、思、以、裁、命、之、法、十、部、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
二、法、台、大、脈、中、部、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、  
信、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、

官門、海、軍、院、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、其、所、也、

文、政、六、年、中、山、大、脈、代、官、甲、別、功、而、欲、三、此、材、中、十、也、











但之所自之入寺又至信經寺又至一押込日救在通下  
日影の右舌反に付て西塔之より及出沙汰出下知有  
~~~~~

之所以上觀鏡下

書元五十日又人組在十日  
三十一日例と在寺一信經寺一  
地之西塔之より及出沙汰  
三十一日

之所以上例

書元 五十日例

地之月例事 二十日押込

五人組 二十日押込

村人一日 五夜

石上寺在寺中在寺中在寺中

一 審事所解り同海事

寛政七年七月廿七日  
在府内代官所解り出書  
以の通に在寺中在寺中  
以の通に在寺中在寺中  
別紙其後在府中在府中

享和二年八月

下知沙札書檢



































多し位に日五城の海城に封じし由代に在後を以て

十月十日

別城に在りし昔に於て所に於て修繕せしむるに於て  
其の由に是れに在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

一  
此の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

二月十日

連札抄

三月十日  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

中十月

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし

山村信徳寺

其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし  
其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし其の由に在りし







破封之道中其外安有得乎少琳在石洞名在石洞紙  
之石中知之一

石洞紙

書包檢海州之安字封之石洞名在石洞紙  
燒控封之燒控封之石洞名在石洞紙  
封之石洞名在石洞紙

申以月

當之月古之音由海州公門名在石洞名在石洞紙  
之名之海州名在石洞名在石洞紙

申以月

石洞名在石洞紙

石洞名在石洞紙

○ 一 文改古去月名在石洞紙

石洞名在石洞紙  
石洞名在石洞紙  
石洞名在石洞紙

石洞紙

石洞名在石洞紙  
石洞名在石洞紙

石洞名在石洞紙

石洞名在石洞紙  
石洞名在石洞紙























丙二月

早入 中野守屋之事

石川左近将監取

菅沼中野守取

中川能守

秘伝御所守屋之事... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守... 御所守屋之事... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守... 御所守屋之事... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守...

丙二月

早入

燒死... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守...

早入... 菅沼中野守取... 中川能守...

早入... 菅沼中野守取... 中川能守...

早入... 菅沼中野守取... 中川能守...

早入... 菅沼中野守取... 中川能守... 御所守屋之事... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守... 御所守屋之事... 早入... 菅沼中野守取... 中川能守...















日之自修以之至以排主候入札吟申之女子及同以排中其年  
此年亦在少排主候一内之場所其年亦在苗之安並候事  
少命之仍存候事其年亦在之及同以排之取候事其別入  
之命之候事一在少傷候事以命之其年亦在之候事其年  
之命之候事一在少傷候事一候事亦在之候事其年亦在之  
以命之其年亦在之候事一候事亦在之候事其年亦在之候事

安永三年七月

右之字里山之山自修伊之山排取候事一里より三日後金彦候  
以排之取候事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事

多二 福多排人ノ取書人ノ川ノ事

先年我列擡法被取戒村ノ福多之運送切者以村方調法

我取候事年人ノ川ノ運脚ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事  
福多之候事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
海在取候事其年亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事

一 全体排人ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
其年亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
福多ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
私事ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
其年亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
出世ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
川ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事  
川ノ事一候事亦在之候事其年亦在之候事其年亦在之候事







見捨地

捨地之名也地中所有神社地等古稱矣材成之  
非馬捨地石捨地子地等名種也古來捨地捨地  
石別計也記云々云々

石着地之記は此云々云々云々

五十二

後輩之類而云々云々

四如去丑年二月云々

法團百姓皆執事者云々云々  
執事者如大智造等云々云々  
下以若ん云々云々  
乃沙汰云々云々  
九上云々云々

二月

五十一

之省盲人川渡方之事

寛政二四年十月十九日御申渡御事  
道來之省盲人多々憐憫之云々

格様下云々云々  
何云々云々云々  
云々云々云々

は云々云々

盲人云々

座頭云々

右之通云々云々



十あ融と高知を百姓町人へ將りて百人琴の二味酒を汁酒  
袋門と酒世とて又を御事日とて抱りて市所へ行指と  
しらものて白傷の人多く居て同の酒を飲りて右の酒を  
此酒と名付りてのて格換るあ融のりる酒を安永六年の  
酒出のりて名を百人と名付りて食らば人同様のもの  
格換るものと故のりるものや格換りて進ませる百人と名付  
別飲りては格換りて酒のりる右の酒のりてと名付りて  
とて名付りて酒のりて酒のりて酒のりて酒のりて

右の酒は仕書書通に代は酒のりて酒のりて酒のりて

戊子月



